

寄付金
プロジェクト

モンゴル視察研修へのご寄付のお願い

～ ぱれっとメンバーによるモンゴルの障がい者就労支援 ～

1995年、モンゴルの障がい者関係のスタッフがぱれっとに見学に来たことから、モンゴルとの関係ができました。徐々に現地の福祉事情が明らかになり、ぱれっとでモンゴル視察旅行を2002年に企画し、障がいあるメンバー数名とスタッフ・ボランティア、親が参加をしました。その当時は、義足や車いすといった身体障がいの方の支援が主でした。

そして今年、モンゴルで知的障がいのある子どもの早期療育や就労に向けてのボケーショナルトレーニングを行なっている APDC (Association of Parents with Differently-abled Children) の代表セレンゲさんがぱれっとで1週間研修を行ない、日本の福祉事情や法制度、就労支援やグループホーム宿泊、余暇活動支援を行なうたまり場ぱれっとへの参加、渋谷区内の身障者センターでの入所者の生活の様子や障害児の療育等、幅広く学ぶ経験をしました。

ぱれっとは、クッキーづくりを通じて就労支援のノウハウを既に1999年にスリランカで実践しています。そして今回、モンゴルでの福祉の増進に役立つ啓発プログラムを行ないます。具体的には、障がいのあるメンバーがクッキー作りを現地の障がいのある人たちに教えることで、彼らの働く場づくりと就労支援の必要性の理解を求めます。将来的に、ぱれっと・インターナショナルジャパンがモンゴルの障害者就労支援と福祉の増進に少しでも協力できればと考えています。また、企画に参加したメンバー

による報告会を開くことで、今後の仕事のモチベーション向上と自信につながる経験にしていきたいと考えます。

●モンゴルとのネットワーク構築

障害者福祉関連の組織団体並びに企業とネットワークを構築し、モンゴル国内での支援の輪を広げていかれる効果も期待できます。

今回は、APDC との連携を通じてクッキーづくりの実践のみならず、現地の障がいのある家族を抱える親との交流を目的に、ぱれっと親の会から親の代表として1名参加します。日本の福祉事情、抱える課題等、親どうしならではの共有・共感が期待できます。障がいのある本人の自立に向かう第一歩が親の理解にあり、彼らを社会に押し出すためには親の意識改革が必要と考えます。昔の日本も、家で障がい児者を囲い込む時代でした。モンゴルも決して例外ではなく、世の中に広く理解を求めるには、親の意識を変えていく必要性を感じます。

●モンゴル就労啓発プログラム期間

2019年9月16日(月)～20日(金)
現在、ヤマト福祉財団に助成金の申請を行なっています。出張メンバーは、支援者含め7名です。出張費用総額は180万円を見込んでいます。50万円を法人自己負担と考え、寄付金30万円を目標としています。ぜひ皆さまからのご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

(認定NPO ぱれっと理事長 相馬宏昭)

* 寄付の振込み先は②ページに掲載